

第5回 丹波市生涯学習基本計画審議会（摘録）

開催日時	令和2年2月18日（火）午後3時00分開会～午後4時30分閉会
開催場所	氷上住民センター
出席者	【委員】 岡田龍樹委員長、萬浪佳隆副委員長、荒木伸雄委員、足立雅人委員、大西誠委員、角悟委員、酒井礼子委員、松本佳則委員、松井宣子委員、細見典子委員 【丹波市】 副市長 【丹波市教育委員会】 教育部長、教育総務課長 【事務局】 まちづくり部長、まちづくり指導員、市民活動課
欠席者	【委員】 山内佳子委員、酒井芳朗委員、廣瀬渡委員、
傍聴者	なし
次 第	1. 開会 2. 委員長あいさつ 3. 会議の公開・非公開について 4. 報告事項 （1）第4回審議会報告について 5. 協議事項 （1）パブリックコメントの回答（案）について （2）丹波市生涯学習基本計画後期計画（案）について （3）丹波市生涯学習基本計画後期計画に関する答申書（案）について 6. その他 7. 閉会
資 料	【資料1】 第4回審議会摘録 【資料2】 丹波市生涯学習基本計画後期計画案に関する市民意見とそれに対する市の考え方 【資料3】 丹波市生涯学習基本計画後期計画（素案） 【資料4】 丹波市生涯学習基本計画後期計画に関する答申書（案）について

会議摘録	
発言者	発言の要旨
委員長	1. 開 会 ○開会あいさつ 2. 委員長あいさつ 皆さんこんにちは。生涯学習基本計画審議会もいよいよ大詰めとなり今回をもって終了としたいと思っている。これまでの皆さんからのご意見、パブリックコメントの意見を追加し、本日、最終確認をしていただきたい。本日、副市長と足立部長は次年度の予算記者発表が終わり次第こちらへ到着される。到着次第、御挨拶していただく予定にしている。 3. 会議の公開・非公開の決定について ○公開に決定 4. 報告事項 第4回審議会報告について、事務局に説明を求める。 (1) 第4回審議会報告について ○資料1に基づき説明
事務局	
委員長	第4回審議会の報告について質問があったらお願いしたい。 副市長が到着されたので、挨拶いただきたい。
副市長	本日は、令和2年度予算の記者発表があり出席していました。来年度予算は、一般会計総額 336 億円、今年度が 351 億円で 15 億のマイナスとなり、行革を進めています。しかしながら、特に市民が主体的に活動される生涯学習を含め、地域づくりにはお金をかけていかなければと思っています。学ぶことが全ての原点であり、基本計画は大切な計画だと思っています。この間、5回にわたり終始熱心に議論いただき、パブリックコメントも出揃いました。皆さん大変お世話になり、感謝を申し上げます。よい計画に仕上がったと思っています。これからも生涯学習推進に力添えをいただくことをお願いし挨拶とさせていただきます。 5. 協議事項 事務局から説明をお願いします。 (1) パブリックコメントの回答（案）について ○資料1に基づき説明

委員長	パブリックコメントについて5つの指摘をいただいた。補足、修正をいただきたい。我々の考えに添って頑張って下さいとの意見が多かったと思う。具体的に提案のあった内容は、修正し提示している。この点について意見をいただきたい。 パブリックコメントにより文言を修正したのは20ページのめざす市民像、めざすまちの姿で、価値観を認めるという文言や、持続可能な…キーワードとして意識している文言を入れ込んでどうかという提案であった。受け入れて良いのではと事務局で修正した。
委員	パブリックコメントの3つ目は、地域による子育てという記載があっても良いのかなと思う。それに対して考え方の最後の結びが「地域が中心となってこれから子どもたちを育てていけるよう取組んでいきます」という結びになっているが、地域による子育てはこの事なのかという感じがする。施策の中でどれが当てはまるのかを見ると、25ページの具体的施策①「多様な学びの活動をつなぐネットワークの推進、○学びの機会を提供する組織や団体間等のネットワークづくりをすすめ、効果的な学びにつなげます。」という中身は、地域の子育てを意味されていると拡大解釈すればそうなるのではないかな。市の考え方でいろいろな地域の魅力を見つける…。ということは、つながってはいるけれど、もう一つピンとこない。地域によるとそうであるというのは少し論点が違うのかなと思う。他に当てはまる施策があるとすれば教えていただきたい。
委員長	子どもたちに求められる新しい価値を創造していくこと、あるいは皆で協力して開発する力を育てなければならない。その力を学校で育ててほしい。また、学校だけではなく地域でも一緒に育てる必要があるというのが意見である。つまり、広く学校教育と地域社会の中の学びを通じて新しい力を育てていこうというのが、計画のどの部分に該当するのかを回答すれば、提案者に伝わるということだと思うが、25ページの多様な学びの活動をつなぐネットワークの推進というところが該当するのではないかと指摘をしている。 何か他にありますか。
委員	29ページの「まなび里をつくろう」の具体的施策④に、「学校、家庭、地域の連携・協働」があり、この部分が該当すると思われる。
委員長	学校でも地域でも取り組んでどうかという提案であるので、委員の言われるとおり、この部分が該当すると思われる。
事務局	委員からご意見いただいた、25ページ①「多様な学びの活動を繋ぐネットワークの推進」と29ページ「④学校、家庭、地域の連携・協働」こちらの方も市の考え方とともに加えさせていただきたい。

委員長	そのように、回答していただければよいと思う。 他に何かありませんか？
委員	資料2 No.1 のところの「SDGs」の視点というのが1番, 2番に挙がって「持続可能なまちづくり」という流れになっている。「持続可能」という言葉を最近は良く使われるが、内容が分からない方もいる。実際に「SDGs」という言葉を注釈に入れて「持続可能な…」というところを説明するのは難しいのだろうか。
委員長	この件は、事務局とも相談したが、「SDGs」が入ると分かりにくい…。
委員	言葉を入れるのではなく、考え方の注釈を入れるのは無理だろうか。
委員長	人口が減少し高齢化が進んでいく中で、多様な課題があり、このままでは消滅に近いという状況も想定されている中で、丹波市は丹波市であり続けなければならないというのが「持続可能なまちづくり」ということである。ただ「SDGs」の説明をするとかえって混乱しないかと議論したところである。
副委員長	17 ページを見てもらうと、丹波市における持続可能なまちづくりについては、17 ページの記載が市民にわかりやすいのではないと思う。「社会的要請、地域課題、市民意識調査等を踏まえながら、市民一人ひとりがよく学び、自分たちの地域課題は自分たちで解決する力を持ち発揮する“知識循環型生涯学習による持続可能なまちづくり”」このあたりが、市民にわかりやすい。学問上の問題ではなく、わかりやすい言葉で述べてあるのではないか。
委員長	「SDGs」の文言を計画に盛り込むのか、パブリックコメントにどの様に回答していくかは、横文字の「SDGs」を加えると、これまでの流れなどが分かりにくくなるかも知れないと思っている。あえて「SDGs」という言葉は使わないが、持続可能なまちの考え方というものを丹波市は持っているという回答をしてはどうか。 それでは、パブリックコメントへの対応はこの形で進めていくということではよろしいか。 他に意見ありますか。
委員	「SDGs」は、重要な問題として、いろんなところで議論されると思っている。先日「SDGs」を学ぶ機会があり、まだまだ「SDGs」が浸透していないというのが主催者側の捉え方で、持続可能なまちをつくる、社会をつくると

委員長	いうことは、なかなかイメージがしにくいというのを私もその場で感じた。丹波市の基本計画を考えると、人口減少、財政が苦しくなる中で丹波市を持続可能なまちにしていかなければならないというのは、一番のポイントになると感じている。各世代がどう学び合って、次の世代にどうつなげていくのかが大きな焦点になると思っている。その中に「SDGs」の視点がますます必要となり、審議会でもテーマとして挙がっていた「地域と学校の協働」、「地域づくり」そこから生まれる地域づくりが、これから大事なのかなと「SDGs」の話題の中でも感じた。私自身も「コミュニティスクール」に関わる中で、学校現場の課題や、地域の課題をそれぞれが抱えていると、その課題が今はどちらかというと「地域の課題」「学校の課題」と認識され、それぞれを分けて考えている。それぞれの課題は捉え方によって地域の中の課題であったり、社会の課題であったりすると思う。課題に対する捉え方は、自分の関わり方が、目の前の課題は敏感に感じる、そうでないものは敏感に感じるができない。というように感じきれない課題が多くあると感じている。 これから様々な課題が出てくると思う。まちの課題が複雑化、多様化していく中で、これからの人たちはどう課題解決するのか。パブリックコメントにもあったように、新しい価値を創造する力や課題を解決する力がこれからは必要となる。それをどう養っていくのかが丹波市の生涯学習のポイントだと思う。そのためには、地域協働活動や、丹波市なりの社会教育をどう捉えていくか、そこで市民の課題に対する捉え方、それを含めた価値観を今一度調整する時期にきている。 基本計画ができ、基本計画の中で人々の学びが多様になって、学びあいながら、価値観や社会の課題に対する捉え方も前向きになっていくかたちになればと思う。 大きく社会が変わろうとしている、変わらざるをえないというところで、このまちでもこれから市民がどのように関わっていくのかというところがこの基本計画の位置づけだと思う。「SDGs」にしても、一方ではSociety5.0対応という言い方をするが、そこをどうリンクしていくのか。社会が変わっている中で求められている能力もこれから変わっていく。それにも対応していかなければならない。それは学校も地域もそうである。それをこれは学校、これは地域、と言っているのではなく、一緒に考えていかなければならないということだと思う。社会問題というのは複合して問題化していくから、焦点化してすぐに解決するのではなく、遠回りしても皆で協力し色々なところから解決策を模索していくというのが、一番早いのではないかと私は思う。その意味で生涯学習を核にして問題が学校から見たらどう見えるか、地域から見たらどう見えるかをお互いに協力しあいながら、ひとつのかたちとして示し、子どもの育ちを支える。そういう位置づけにこの計画がなればいいと思う。
-----	--

委員	持続可能な地域にしていくために学びを地域に還元していくことは、必要だと思うが、地域や社会を活性化させている団体、例えば自治会や生涯学習の団体の役員の成り手、リーダーの成り手がないという課題で団体がなくなっていくということがある、なぜかなと思う。地域を引っ張っていく方を冷めた目で見るというか、好きでやっているのではないかではなく、そういう方々を評価する、頑張りを認めるという雰囲気づくりがなければと切実に思う。
副委員長	「SDGs」の整理をすると、これはもともと発展途上国に対して開発されたプログラムで、先進国にもそれを持続可能な形で17の目標を立てられたものである。その中で国は、「誰一人取り残さない社会の実現をめざし、経済、社会、環境による課題に取り組む」と言っている。行政における事業、施策そのものに当たると思う。我々は計画の中で、行政が行う施策について「SDGs」の目標に達するように見ていけばいいのではないかな。あえて、この審議上で17項目について謳わずに、各行政の手腕にお願いをする。我々はそれを見守る、方向がおかしければ修正をかけていく、そういった目で見ればいいのかなと思う。誰一人取り残さないというのは、16ページのある「社会的包摂」という言葉で一つのまとめができるのではないかなと考えている。
委員長	No.2の回答の仕方の工夫をご審議願います。誰一人取り残さないという視点と、先ほど委員が言われたように頑張っている人が孤立しないような温かいまちづくりが必要との指摘があったと思う。一方で頑張れない人を補助していくということ、頑張っている人たちを支えることも必要だと思う。
委員	民生委員をして初めて同じ地域の一人暮らしの人や地域と交わっていない人とも出会い、「絵に描いた餅」ではなく、一人ひとりに声が届くようなものにしてほしいと思っている。民生委員として地域の赤ちゃん訪問をしているが、赤ちゃんがそこに生まれたことを地域の誰もが知っているとは民生委員になるまでは思っていたが、全くわからない。いろんな人、自治会長にも聞いてもわからない。地域の人、同じように赤ちゃんがいる方に聞いてもわからない。結局は市役所に行き調べないとわからない。そういうところをひとつとっても今は人と人の顔が見えない。せっかく地道に頑張っている一人ひとりのことを評価するなど、課題をもっていると思うので皆で共有でき、これが生かされるようなものにしてほしいと思う。
委員長	おっしゃるとおりだと思う。どうやっていろんなものが見える化していくことだと思う。活動されている方が、あそこにはこんな方がいると見えるようになる、差し伸べる手を待っている人がいる。それをどうすれば見えるようになるというところにもっていかないと計画に魂が入っていかない。計画はあくまで計画だから、その絵にどのような温かみと動きを加えてい

委員	くのかが課題だろうと思う。計画を市長に答申していくことになるが、これを踏まえて、市のなかで視点を大切にしながら活用し、実際のまちのまなびの動きを作っていくのがこれからの課題だと思う。 29 ページの「学びのまちをつくる」の「課題解決に向けた施策」というところで、学校、家庭、地域が連携し、大人が地域の子どもたちを見守り、健やかに育てる環境づくりを推進します。と謳ってあるが、「④地域の子どもたちを見守り…、将来、まちの担い手となる子どもたちに大人の知識と経験を還元し、子どもの生きる力の育成に努めます。」と書いてある。学校には、地域の人が入りにくいところがあるかもしれない。以前に「平成たんば塾」という市の施策がありましたが、それは自治会に任されている。私の住んでいる地域は、宿題を一緒にしようとお母さん方と勉強している。そういうものも各コミュニティに任されて、地域の人が地域の子どもたちと顔を寄せることによって、大人も成長できると思う。学校も忙しいから地域の人材を入れることは難しいと思うが、学校も求められるところが多いし、市もそのような機会を切らずに、子どもをどう育てていくかを具体的に評価しながら、持続してほしいと思う。
委員長	今、文科省が「コミュニティスクール」を進めようとしている。各都道府県もこれに沿って進めようとしており、丹波市も同様である。「コミュニティスクール」のわかりにくいところは、「学校運営協議会」を設置した学校を「コミュニティスクール」という言い方である。なぜ二段構えになっているのか、わかりにくいところがある。「コミュニティスクール」は横文字で、英語ですが、和製英語ではなくアメリカにそういう学校があり、それを真似て日本でつくろうという話である。アメリカの「コミュニティスクール」は、地域の人たちが自分たちの地域でこんな子どもが育てられる学校をつくろうと校長先生を見つけてきて、校長先生と地域の人が話し合いながら先生を集め、出来上がった学校が「コミュニティスクール（地域運営学校）」である。日本では地域に新しく別の学校をつくることはできないので、今ある学校の中に、地域の意見を反映する仕組みを作り、これを「学校運営協議会」といい、「学校運営協議会」ができた学校を「コミュニティスクール」という二段構えになった。結局、運営協議会は、地域の人たちが、私たちの地域、子や孫、ここに育つ子がどんな風に育ってほしいのかの意志が先にあって、それを持って学校と話し合いをする。「学校運営協議会」は法律に規定された組織ですから、校長は教育の方向について協議会に承認を得なければならない。地域にある運営協議会は、校長に対し提案ができ、こんな先生を連れてきて、こんな事ができるという人事権まである。地域がどのように子どもを育てたいのかを考えていかないといけない。それを共有していく作業が「コミュニティスクール」となる。 ご意見いただきましたように計画をどのように実のあるものにしていくのかということで、議論していただいた協議会のメンバーで仲間づくりを

事務局	し、皆さん自身が孤立することがないように連携し、今後も計画が実のあるものになるようお手伝いしていただけることが一番である。 パブリックコメントについてはよろしいですか。 それでは協議事項（２）丹波市生涯学習基本計画後期計画（案）について、事務局お願いします。 （２）丹波市生涯学習基本計画後期計画（案）について ○資料３に基づき説明
委員長	既にこの計画についてご意見を頂いているが、これを奥行きのあるものにしていくために、改めて計画に対してご意見していただきたい。
委員	計画のなかに「緩やかなネットワーク」という言葉がある。私の中では、今まで緩やかなネットワークというイメージはなかったが、皆さんの意見を伺いながら生涯学習における「緩やかなネットワーク」のイメージが出来ている。 前回の話し合いの中でも印象に残る言葉がたくさんあった。前回の審議会における「社会的包摂」に関する副委員長のお話である。また、先ほど役員の成り手がないという話があったが、それに対し、前回の審議会での委員長の発言に、「コミュニティの人間関係も、縛りあうような人間関係があるとうまくいかない。」とあった。自治会や自治会の役員会も含め、縛りあうような人間関係になっているのではないかと思う。もうひとつ委員長のお話の中に「ナチュラルヘルパー」という言葉があった。光が当たる、当たらないの問題ではないが、人々との助け合い、つながりによって助け合いができていく現状、これもまたお互いの生活の中で言えることである。この計画の中でもつながりを大切にというテーマがあるので、支えあうという言葉がこの計画の中には出てこないですが、お互いの生活を支えあい、助け合って生きていく大切さをこの計画の中で学んだ。困った時に助けてと言える丹波市になってほしいと思う。
委員長	本当にそうだと思う。助けてと言えず、そのままにならないよう、相談に来た人にもう少し早く言えば、もっと良い解決策が見つかったということが往々にしてある。早く声を挙げて頂き、早く手を差し伸べさせていただければ、いい解決ができる。と言うことは取り上げた先が見えている。見えていないと駄目なのだろう。何かワンストップで頼れるものがあればいい。丹波市で新しくできた市民プラザが、ワンストップの窓口になっていくべきだろうし、その機能を果たしていくべきである。
委員	成人式の日市民プラザに偶然行ったのですが、成人式が映っていた。実際に行われている市の活動が見れたり、丹波市に関わりのある方の俳句

	の展示があったり、書道の活動があったりして、気軽に子どもさん連れの方が入ってこれ良かったと思った。あの場がもっと活用できるのではないかと考えている。活動している人の様子が分かるような宣伝をしてはどうか。
委員	31 ページですが、これからの推進体制というところで、実際に進めて行くというところですが、「まなびの里づくり協議会」が民も公も一緒になり話し合いができる場所だと思うが、ここはどういった役割を担うのか、更にどういったことを進められるのかということが課題になってくると思う。私も協議会のメンバーとしてもここでこの計画が更に市民に浸透するように考えて行きたいと思っている、これからの協議会については、市民活動課と話し合っていきたいと思っている。
委員長	「まなびの里づくり協議会」には私も関わっているので、そこでも是非これを取り上げてひとつの推進力になるようにしていく。
委員	活発な議論をしていく中で、個人的には生涯学習が要となって、これからの地域づくりを進めていくと感じていた。これは基本計画の中にも盛り込まれているし、丹波市行政のこれからの方向性というものもしっかりと受け止められたのではないかと考えている。その中で、この基本計画の中に、前期にはなかった社会教育や地域学校協働活動の重要性が盛り込まれているのは、非常に大事なことだと思っている。先ほどから出てきている、「まなびの里づくり協議会」がこれから推進力を持って行われることは重要だと思う。より一層、丹波市行政の社会教育に対する考え方を再認識していただき、学校教育と社会教育が両輪となり、それらを含める生涯学習がより活発になればいいと思っている。委員の意見の中に生涯学習や市民活動をしていても自分だけ活発に動いているという話や、なりたい人と協働しようとする相手の価値観を受け入れることができないというのがあり、今回の目指す市民像の中にある「相手の価値観を認める」というのが、これから非常に重要になってくると思う。自分の価値観を大事にする事は重要であるが、相手を認め、相手の価値観を受け入れて、課題を一緒に解決していかなければならない、それが純粋に地域自治につながっていくのではと思う。地域自治と生涯学習をイコールでは結べないことはあると思うが、地域づくりの基本は自分たちの地域自治の意識であったり、捉え方をどう高めていくかの所だと思いますので、それが多様な世代の方と学び合うなかで、大人も子どもたちから学び、子どもたちも大人から学びながら、価値観を高めたり自分たちの可能性を高めていけるような多様な学び合いのかたちができるればいいと思う。私は学校運営協議会に携わっているわけではないが、これからコミュニティスクールが生涯学習基本計画の中で連動して、しっかり連携し推進して欲しいと丹波市行政にはお願いしたい。

委員長	皆さんの経験に基づいた意見を、我々精一杯一緒に考えてこの文章にしたわけですが、その裏には今言われた気持ちがこもっているのだと思う。これを是非、実のあるものにしてほしいと思う。 いよいよこれで後期計画がこの審議会です承されたということになる。今後の手続きとして、答申について事務局から説明がある。
事務局	(3) 丹波市生涯学習基本計画後期計画に関する答申書（案）について ○資料4に基づき説明
委員長	これを付してこの計画書を市長に答申として受け渡すことになる。 それではこの答申書を私から市長に渡します。日程的には2月21日金曜日になります。これで準備されていきました協議事項は全て終わりました。
委員長	6. その他 その他何か委員の方から意見ありますか。 名残惜しいですが、協議会最後になる。皆さんいろいろなご意見をいただき、熱い委員会になり勉強させていただいた。
副委員長	7. 閉会 ○閉会あいさつ 多くの計画の中で、コンサルを入れて計画を立てられる市町が多いなか、このように市民による、市民のための計画ができたということ、委員が一言も意見を発することがなく終わることがない会であったと思う。その中でパブリックコメントを見せていただき、優しい人がいるのだな、こんな市民の方がいるまちはいいなと、生涯学習基本計画に基づいて、こういった人がもっと増えると、もっとよい丹波市になれるのではないかと。私は他から来た人間ですので、そういう意味では丹波市は凄いな、人材が多いなと思った。これまで1年間、皆さま方とこの計画作成に携わらせていただいたこと感謝するとともに、重責の一端を担わせて頂き、答申をするにあたり安堵している。本日をもってこの審議会を閉じ、市長に答申するだけになったが、委員の皆様方、職員の皆様方大変ご苦勞様でした。 先ほど委員の方からあったように、これが絵に描いた餅にならないよう、いかにこれを活用していくかが大事だと思う。市当局も施策、事業等にこれを活かしながら、委員の皆さまもそれが進んでいるかをチェックしながらやっていく。完璧な計画ではないと思う。不完全を補うのがマンパワーだと思う。皆さん知恵を出しながらより良い丹波市にしていくために皆さん方一緒に頑張りましょう。この会を閉じるにあたり丹波市の益々の発展と皆様方がご健勝でご活躍されることを祈念いたしまして挨拶に代えさせていただきます。皆さんご苦勞様でした。

副市長	冒頭にもお礼申し上げましたが、５回に渡り大変熱心な審議をいただきありがとうございます。おかげをもちまして大変いい計画に仕上げていただき感謝を申し上げます。この間、私も参加をさせていただき、基本計画は立派なものが出来上がりましたが、皆さんの議論を聞いていると、基本計画に盛り込めていない一人ひとりのいろんなお話がむしろ大変有意義なことが多かったと思います。今日も意見をいただいている中で、参考資料として議事録をつけてどんなお話をされているかを読むのが、市民の皆さまに役に立つのかなと思いました。議事録は、市で公開していますので多くの方に基本計画と共に読んでいただければ大変役に立つと思います。また、学びというのは入口ですが、問題は出口として学んだことをどう活かすかということ。学んだことを学んだ方がどれだけ充実感を覚えるかということでしょうが、おそらく学ぶだけで満足される方もおられますが、学んだことを認められる、評価される制度をつくるのが次の学びの励みにもなりますし、学んだことを何かの形で活かせる、活用できるという実感が喜びになり次の学びにも生きるのかなと。その意味では学びというのは入口ですが、出口もセットで考え初めて学びなのだと思います。生涯学習基本計画はまさに入口だけでなく、出口まで含めた計画にさせていただいているという意味で、地域づくりまで含めた広い計画にさせていただいたと思います。素晴らしい計画を作ってください、この後市としては全庁挙げてこの計画を進めていくというところに注力を果たしていきたいと思います。岡田委員長、萬浪副委員長はじめ皆様方、一年間ありがとうございました。
-----	--